



国東市指定無形民俗文化財

川舟祭

かわ

ぶね



川舟祭の由来

住吉神社

川舟祭は国東市安岐町の安岐川河口周辺で行われる、住吉神社の夏の伝統行事です。住吉神社は永正5（1508）年、安岐の港町の商人たちによって祀（まつ）られたと伝わっています。当時は品物を船に積み込み、瀬戸内海を通って大阪方面へ商売に行っていました。長い海路の途中、台風やシケで遭難することも多かったため、海上安全の神として信仰されていた住吉神を祀ったと考えられます。

当初社殿が建てられていた場所は、元禄16（1703）年や天明8（1788）年にたびたび洪水の被害を受け、加茂神社にご神体を移すことが何度もありました。文化11（1814）年に加茂神社へ移されてからは、現在まで加茂神社で一緒に祀られています。

川舟神幸

川舟神幸（しんこう）神体が他所へ赴くことは、文化12（1815）年から、港町を中心とする船主や商人が海上安全・大漁・商売繁盛などを祈願して行われるようになったと伝えられています。夜7時頃、住吉神の神輿が加茂神社を出発し、安岐漁港から篝火舟（かがりぶね）や囃子舟（はやしぶね）などの舟団を伴って安岐川を遡ります。篝火舟からは高く火柱が吹き上がり、男たちが川面に飛び込みます。これは厄を焼きはらい体を清める意味があるといわれています。神事の目的地は加茂神社からおおよそ一キロメートル上流の「御旅所」おたひしよ（神幸の途中休憩する所）です。神輿は御旅所で休憩した後、毛槍組（けやりぐみ）によるお練りの行列を先頭に、加茂神社まで陸路で帰ります。

川舟祭は、地域でも有数の夏祭りとして行われていました。しかし昭和36（1961）年に集中豪雨による大水害が起き、商店街の各店舗・家屋が破損し、祭りの道具も流失したことから、しばらくの間中断を余儀なくされました。

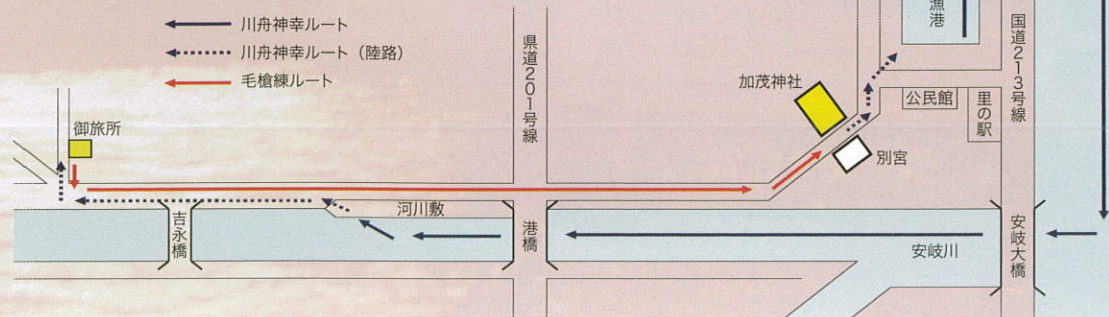
その後平成3年に、地元商工会青年部により再編成・復活されました。平成7年には地元地区を中心に保存会が結成され、地域のコミュニティ行事として保存・継承されることになりました。平成11年7月8日に国東市の無形民俗文化財に指定され、毎年多くの見物客でにぎわいます。毎年大潮（1年で最も潮の満ち干きの差が大きい状態）の日のころに行われます。

毛槍練

毛槍練は神輿が御旅所から加茂神社へ還る際、神幸行列の先導として行われます。毛槍組は頭に鉢巻（はちまき）を締め、腹にサラシ（sarashi）を巻いて白い半袴（はんばかま）をはき、紫の法被（ほろひょう）をはおり、手には手甲（てっこう）、脚には脚絆（きゃはん）を着け、草鞋（わらじ）を履きたいわゆる「中間（ちゅうけん）（武家に仕え雑務を担った人）」の服装をして毛槍を持ちます。毛槍は先端に鳥毛の飾りをつけた槍で、元々は江戸時代に大名行列の際、大名家の識別のため中間に持たせ、行列の先頭で独特の所作をとらせたものです。それが各地の祭礼の行列で取り入れられ、この川舟祭でも神輿の守り手として行われています。



川舟祭会場周辺図



川舟神幸

午後7時、安岐漁港で待機する舟団に神輿が乗船すると、漕舟に続いて舟団が次々と安岐川を遡ります。

漕舟の人が待前音頭を唱え、掛け声をかけて



○篝火舟(かがりふね)

舟べりの外側まで大きくはみ出すように板を張り、その中央で薪に火をつけ、火柱を上げながら漕舟に続きます。毛槍組の男たち数十人が火を囲むように乗り込みます。火に灯油をかけると大きな炎が吹き上がり、男たちが川面に飛び込みます。



○お供舟(おともふね)

神輿舟の後を3艘ほどの供舟が提灯を掲げ従います。



○飾り舟(かざりふね)

紅白の提灯を飾りつけ、花火を打ち上げながら舟団の最後尾を華やかに彩ります。



○漕舟(こぎふね)

提灯を山形に飾り、「ホーランエーエイ エヤサノサッサ」と掛け声をかけながら舟団をひきいて先頭を行います。



○神輿舟(みこしふね)

神灯の提灯を掲げ、神輿を乗せて神幸します。神官・楽士・総代長などが乗り込みます。



○囃子舟(はやしふね)

たくさんの紅白提灯を飾りつけ、子どもたちが「コンチキチン」の鐘や太鼓を打ち鳴らしながら供舟に続きます。

川舟祭の流れ

午後5時

加茂神社本殿で神事を行います。

午後6時ごろ

神社総代が毛槍組を呼びに行きます。この時毛槍組は1度では出てこず、2〜3回呼びに行つてやっと出てきます。加茂神社向かいの別宮で神事をした後、毛槍組は氏子繁盛を唱えて、篝火舟に乗り込みます。毛槍組に続いて神輿も神輿舟に乗り、各舟が出発の準備を行います。



午後7時ごろ

漕舟の待前音頭（ござたておんど）と掛け声の後、漕舟を先頭に船団が安岐漁港を出発します。海に出た後安岐川河口から上流へゆっくりと遡上します。篝火舟からは大きな火柱が吹き上がります。船団が橋の下を通過する際は橋の通行を止め、神輿の真上に人が立たないようにします。



午後8時20分ごろ

舟団が河川敷に到着します。神輿が御旅所に上陸して休憩します。

午後8時40分ごろ

毛槍組が御旅所に参列し、神事が行われます。



午後9時

神輿が御旅所を出発し、加茂神社まで陸路で帰ります。道中先導の毛槍組は2列の隊列を組み、「ヨーイトマカセ」のかけ声とともに列の左右で毛槍を持ちかえながら緩やかに練り歩きます。そして通り沿いの家々の前で商売繁盛を祈願して打ち込みを行います。神輿も後に続いて打ち込みを行います。



案内図



お問い合わせ

国東市伝統文化活性化実行委員会

事務局：国東市教育委員会 文化財課

〒873-0504 大分県国東市国東町安国寺 1639-2

国東市歴史体験学習館内

TEL：0978-72-2677

FAX：0978-72-2505

祭りの参拝についての注意

祭りには、学術的な調査や記録以外、一般には公開されていない部分もあります。個人宅や屋内等で行われる非公開の行事には、関係者のみで行われる神聖な神事や住民のプライバシーに関する事柄も含まれています。祭りの伝統やしきたりを尊重し、迷惑をかけることのないようにしましょう。また、神社境内での公開行事では、マナーを守って写真撮影等を行い、祭りの関係者や参拝者に迷惑をかけることのないようにしましょう。